

氏名

主治医意見書の記入日 令和3年9月15日

1. 傷病に関すること(特定疾病または生活機能低下の直接の原因となっている傷病名)

(1) 診断名 : 発症年

1 高血圧	発症年	平成	28	年
2 脳梗塞	発症年	令和	3	年
3 右上下肢麻痺	発症年	令和	3	年

(2) 症状としての安定性 安定 不安定 不明

(「不安定」とした場合、具体的な状況を記入)

(3) 生活機能低下の直接の原因となっている傷病、または特定疾患の経過及び投薬内容を含む治療内容

平成28年頃から、高血圧症でB医院で加療。令和3年6月に突然倒れ、当病院へ緊急搬送された。脳梗塞による右上下肢麻痺により入院加療。現在、降圧剤を使用し、全身状態は安定している。リハビリテーションを実施しており、杖歩行が可能なまで回復している。

【投薬内容】

アダラート

パルナジン

3. 心身の状態に関すること

障害高齢者の日常生活自立度:A2 認知症高齢者の日常生活自立度:正常

【身体の状態】

利き腕:右 身長:160cm 体重:54kg(過去6ヶ月の体重の変化:減少)

麻痺:右上肢(中程度) 右下肢(中程度) 筋力の低下:両下肢(軽度)

関節の拘縮:右肩・右肘関節(中程度)

4. 生活機能とサービスに関する意見

【移動】屋外歩行は介助があればしている。車いすは主に自分で操作している。歩行補助具は屋外で使用。

【栄養・食生活】自立ないしは何とか自分で食べられる。栄養状態は良好。

【現在あるか今後発生の可能性の高い状態とその対処方針】転倒・骨折、移動能力の低下→住環境の整備・見守り。

【サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し】期待できる。

【医学的管理の必要性】訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション

【サービス提供時における医学的観点からの留意事項】血圧:あり(降圧剤の内服)・移動:あり(転倒に注意)

5. 特記すべき事項

- ・全身状態・ADLは安定しているが、介護者も高齢のため不安を抱いている。
- ・転倒のリスクがあるため、見守りが必要である。